

男女共同参画標語  
最優秀賞  
「男女とも 歩みあわせて  
輝くとりで」  
宮下拓也さん 藤代南中学校(当時)

# 33号 風

平成25年3月1日発行

優秀賞  
学生部  
「同じだね 働く力と 支える心」  
「認め愛 支え愛 補い愛」  
「男女の手 大きさ違えど 価値は同じ」  
一般部  
「女の手男の手 合せた未来 取手から」  
「役割を 担う意欲と 任せるゆとり」



茨城県地域女性団体連絡会での記念写真

「次世代へつなぐ地域の絆、女性の力」  
取手市地域女性団体連絡会会長 瀧本恭子さんに聞く

取手市地域女性団体連絡会は、暮らしに密着した活動で長年地域に貢献してこられました。東日本大震災の折には、炊き出しや被災地からの避難者への支援など、その機動力を発揮して、災害時に果たす女性の役割の大きさとネットワークの重要性を私たち市民に強く印象づけました。しかし、これらの活動はほんの一部ではありません。今回は、会長の瀧本恭子さんに会の活動と課題、今後の展望についてうかがいました。

「私たちが抱えている一番の問題は、会員の高齢化です。女性リーダーの育成の問題も含め、若い世代へどう引き継いでいくかが大きな課題です。また、時代にあった組織運営、活動方式を採っていく必要もあるでしょう。」

「私たちは、特定の目的を持つ団体ではありません。その時々求められるもの、参加できること、協力できることに取組む。だから、取手市地女連の活動は、時代や社会にしながらに対応できるのです。」

「私たちは、特定の目的を持つ団体ではありません。その時々求められるもの、参加できること、協力できることに取組む。だから、取手市地女連の活動は、時代や社会にしながらに対応できるのです。」

「私たちが抱えている一番の問題は、会員の高齢化です。女性リーダーの育成の問題も含め、若い世代へどう引き継いでいくかが大きな課題です。また、時代にあった組織運営、活動方式を採っていく必要もあるでしょう。」

「私たちが抱えている一番の問題は、会員の高齢化です。女性リーダーの育成の問題も含め、若い世代へどう引き継いでいくかが大きな課題です。また、時代にあった組織運営、活動方式を採っていく必要もあるでしょう。」

「私たちが抱えている一番の問題は、会員の高齢化です。女性リーダーの育成の問題も含め、若い世代へどう引き継いでいくかが大きな課題です。また、時代にあった組織運営、活動方式を採っていく必要もあるでしょう。」

「私たちが抱えている一番の問題は、会員の高齢化です。女性リーダーの育成の問題も含め、若い世代へどう引き継いでいくかが大きな課題です。また、時代にあった組織運営、活動方式を採っていく必要もあるでしょう。」

「私たちが抱えている一番の問題は、会員の高齢化です。女性リーダーの育成の問題も含め、若い世代へどう引き継いでいくかが大きな課題です。また、時代にあった組織運営、活動方式を採っていく必要もあるでしょう。」

「私たちが抱えている一番の問題は、会員の高齢化です。女性リーダーの育成の問題も含め、若い世代へどう引き継いでいくかが大きな課題です。また、時代にあった組織運営、活動方式を採っていく必要もあるでしょう。」

「私たちが抱えている一番の問題は、会員の高齢化です。女性リーダーの育成の問題も含め、若い世代へどう引き継いでいくかが大きな課題です。また、時代にあった組織運営、活動方式を採っていく必要もあるでしょう。」

「私たちが抱えている一番の問題は、会員の高齢化です。女性リーダーの育成の問題も含め、若い世代へどう引き継いでいくかが大きな課題です。また、時代にあった組織運営、活動方式を採っていく必要もあるでしょう。」

「私たちが抱えている一番の問題は、会員の高齢化です。女性リーダーの育成の問題も含め、若い世代へどう引き継いでいくかが大きな課題です。また、時代にあった組織運営、活動方式を採っていく必要もあるでしょう。」

「私たちが抱えている一番の問題は、会員の高齢化です。女性リーダーの育成の問題も含め、若い世代へどう引き継いでいくかが大きな課題です。また、時代にあった組織運営、活動方式を採っていく必要もあるでしょう。」

「私たちが抱えている一番の問題は、会員の高齢化です。女性リーダーの育成の問題も含め、若い世代へどう引き継いでいくかが大きな課題です。また、時代にあった組織運営、活動方式を採っていく必要もあるでしょう。」

「私たちが抱えている一番の問題は、会員の高齢化です。女性リーダーの育成の問題も含め、若い世代へどう引き継いでいくかが大きな課題です。また、時代にあった組織運営、活動方式を採っていく必要もあるでしょう。」

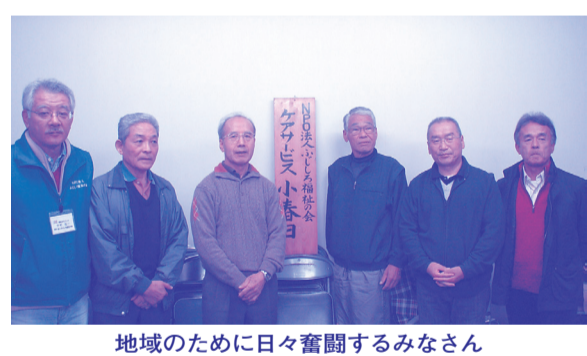
「私たちが抱えている一番の問題は、会員の高齢化です。女性リーダーの育成の問題も含め、若い世代へどう引き継いでいくかが大きな課題です。また、時代にあった組織運営、活動方式を採っていく必要もあるでしょう。」

「私たちが抱えている一番の問題は、会員の高齢化です。女性リーダーの育成の問題も含め、若い世代へどう引き継いでいくかが大きな課題です。また、時代にあった組織運営、活動方式を採っていく必要もあるでしょう。」

「私たちが抱えている一番の問題は、会員の高齢化です。女性リーダーの育成の問題も含め、若い世代へどう引き継いでいくかが大きな課題です。また、時代にあった組織運営、活動方式を採っていく必要もあるでしょう。」

「私たちが抱えている一番の問題は、会員の高齢化です。女性リーダーの育成の問題も含め、若い世代へどう引き継いでいくかが大きな課題です。また、時代にあった組織運営、活動方式を採っていく必要もあるでしょう。」

「私たちが抱えている一番の問題は、会員の高齢化です。女性リーダーの育成の問題も含め、若い世代へどう引き継いでいくかが大きな課題です。また、時代にあった組織運営、活動方式を採っていく必要もあるでしょう。」



地域のために日々奮闘するみなさん

## ふれあい 助けあい 愛しあう 地域づくりにお役に立ちたい

NPO法人 ふじしろ福祉の会

最近、定年退職したあとは地域で様々なボランティア活動をしたい、と考えている方が増えてきています。そして、そんな「地域へ飛び込みたい」と考えている団塊世代の方々へ向けて、「地域デビュー講座」を実施している団体もあります。今回は、平成24年度に地域デビュー講座を開講したNPO法人「ふじしろ福祉の会」を訪問し、事業のひとつであるおでかけサポートを主に、理事長の遠藤さんをはじめ6名のみなさんに、入会のきっかけや苦労話などをお聞きしました。

ふじしろ福祉の会は、平成12年遠藤理事長の呼びかけで「外出支援サービス事業（現移動サービス事業）」を立ち上げ、翌13年にNPO法人として茨城県認定を受けました。その名の通り、主に藤代地区を中心として活動しています。設立当初の正会員は32名、そこから現在は67名へと増えてきています。また、平成16年からは訪問介護事業も開始されるなど、年々成長し続けています。

移動サービス事業は、高齢者や障害者など、移動が困難な方に対する送迎サービスです。基本的には会員のマイカーで送迎することになるため、担当のメンバーは皆さん講習を受け、送迎運転のための資格を取っているとのこと。皆さん入会のきっかけは様々です。8年前に入会した方は、地域での活動経験が全くなく、定年退職後、家庭で夫としてどうしたら良いか迷っていた時、会のことを知り入会した、と当時を振り返っておられました。また、入会3年目の男性は、社会福祉に興味を持ち、移動サービスの講習会を受講して入会したのだそうです。なかには、「会社人間だったので、退職後は家に閉じこもりがちで、ボランティアのめり込んでしまったらしいかと家族に心配されていたのが、こうして外で地域のための活動に参加することができ、家族も安心してくれた」とおっしゃる方もいました。皆さんに共通していたのは、定年後の第2の人生で地域サービスをしていくことが他の人たちの役に立てば、との思いだったように感じました。

「私たちが抱えている一番の問題は、会員の高齢化です。女性リーダーの育成の問題も含め、若い世代へどう引き継いでいくかが大きな課題です。また、時代にあった組織運営、活動方式を採っていく必要もあるでしょう。」

「私たちが抱えている一番の問題は、会員の高齢化です。女性リーダーの育成の問題も含め、若い世代へどう引き継いでいくかが大きな課題です。また、時代にあった組織運営、活動方式を採っていく必要もあるでしょう。」

「私たちが抱えている一番の問題は、会員の高齢化です。女性リーダーの育成の問題も含め、若い世代へどう引き継いでいくかが大きな課題です。また、時代にあった組織運営、活動方式を採っていく必要もあるでしょう。」

「私たちが抱えている一番の問題は、会員の高齢化です。女性リーダーの育成の問題も含め、若い世代へどう引き継いでいくかが大きな課題です。また、時代にあった組織運営、活動方式を採っていく必要もあるでしょう。」

「私たちが抱えている一番の問題は、会員の高齢化です。女性リーダーの育成の問題も含め、若い世代へどう引き継いでいくかが大きな課題です。また、時代にあった組織運営、活動方式を採っていく必要もあるでしょう。」

「私たちが抱えている一番の問題は、会員の高齢化です。女性リーダーの育成の問題も含め、若い世代へどう引き継いでいくかが大きな課題です。また、時代にあった組織運営、活動方式を採っていく必要もあるでしょう。」

「私たちが抱えている一番の問題は、会員の高齢化です。女性リーダーの育成の問題も含め、若い世代へどう引き継いでいくかが大きな課題です。また、時代にあった組織運営、活動方式を採っていく必要もあるでしょう。」

「私たちが抱えている一番の問題は、会員の高齢化です。女性リーダーの育成の問題も含め、若い世代へどう引き継いでいくかが大きな課題です。また、時代にあった組織運営、活動方式を採っていく必要もあるでしょう。」

「私たちが抱えている一番の問題は、会員の高齢化です。女性リーダーの育成の問題も含め、若い世代へどう引き継いでいくかが大きな課題です。また、時代にあった組織運営、活動方式を採っていく必要もあるでしょう。」

「私たちが抱えている一番の問題は、会員の高齢化です。女性リーダーの育成の問題も含め、若い世代へどう引き継いでいくかが大きな課題です。また、時代にあった組織運営、活動方式を採っていく必要もあるでしょう。」

「私たちが抱えている一番の問題は、会員の高齢化です。女性リーダーの育成の問題も含め、若い世代へどう引き継いでいくかが大きな課題です。また、時代にあった組織運営、活動方式を採っていく必要もあるでしょう。」

「私たちが抱えている一番の問題は、会員の高齢化です。女性リーダーの育成の問題も含め、若い世代へどう引き継いでいくかが大きな課題です。また、時代にあった組織運営、活動方式を採っていく必要もあるでしょう。」

「私たちが抱えている一番の問題は、会員の高齢化です。女性リーダーの育成の問題も含め、若い世代へどう引き継いでいくかが大きな課題です。また、時代にあった組織運営、活動方式を採っていく必要もあるでしょう。」

「私たちが抱えている一番の問題は、会員の高齢化です。女性リーダーの育成の問題も含め、若い世代へどう引き継いでいくかが大きな課題です。また、時代にあった組織運営、活動方式を採っていく必要もあるでしょう。」

「私たちが抱えている一番の問題は、会員の高齢化です。女性リーダーの育成の問題も含め、若い世代へどう引き継いでいくかが大きな課題です。また、時代にあった組織運営、活動方式を採っていく必要もあるでしょう。」

「私たちが抱えている一番の問題は、会員の高齢化です。女性リーダーの育成の問題も含め、若い世代へどう引き継いでいくかが大きな課題です。また、時代にあった組織運営、活動方式を採っていく必要もあるでしょう。」

企業訪問

男女共同参画社会を職場から

みなさんの笑顔のために!

千葉 真理子さん (ふれあい通り法律事務所 弁護士)

日本では、法律の世界で特に女性の参画がまだまだ進んでいない、と言われており、弁護士に占める女性の割合は20%未満にとどまっています。今回は、取手市内の弁護士では紅一点である千葉真理子さんをお訪ねし、日頃の弁護士としてのお仕事や、女性弁護士ならではのお話をうかがいました。

子育てしながら 難関資格にチャレンジ

千葉さんは、法律とは無縁の学部のご出身です。外資系企業に勤務後、結婚・出産をされ、子育て期間中に独学で司法書士試験に合格、司法書士の仕事をこなしながら法科大学院試験に合格、平成19年に司法試験に合格されました。

難関試験を突破しなければ就職することができない職業を選ばれたのは、「何か資格を取り、自分をステータスアップさせたかったからです。」と、さらりとおっしゃいました。穏やかな笑顔に知性がキラリと光り、柔らかな物腰と優しい声に人情味が溢れています。

千葉さんの業務は、離婚・相続などの家事事件、債務処理・交通事故・慰謝料請求などの一般民事事件、刑事事件といった様々な事

絶対にあきらめない

千葉さんが仕事を通して一番喜びをお感じになるのは、やはり、「相談に応じた事件が解決をみて、依頼者の方の心を軽くすることができた」ときです。特に、最初とても暗い顔で相談に来た依頼者が、事件が解決して笑顔を見せてくれた時の感動はひとおだそです。

どんな悩みも

「どんなお悩みやご相談に対しても絶対にあきらめない、必ず解決への道はある、という気持ちで臨んでいます。苦しんでいらつしやる依頼者のお気持ちに添い、自分も苦しみながらも、明るくポジティブに物事を考えなければいけないと思っていま

もっと多くの方の

「朝型人間の生活をするために、8時には出勤しています。午前中にたっぷり仕事ができる」と、充実した気分になれます。常時数十件の依頼・相談をかかえ、休日は無きに等しい生活の中、千葉さんは、時間の使い方がとても上手です。



「男女共同参画」を体現する ふれあい通り法律事務所のみなさん

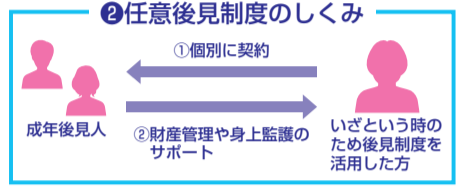
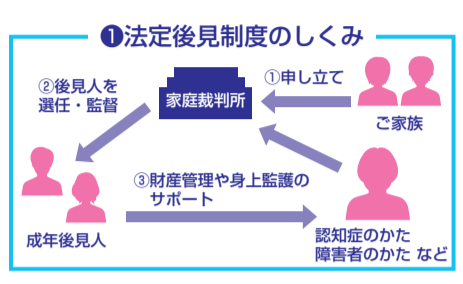
ゆる分野に男女がバランス良く存在して協力するべきです。女性の皆さんには、遠慮や気後れをする事なく、勇敢に自分の希望に向かつてほしいと思います。細やかな気配りと思いやり、決してあきらめないという信念、あくまでも前向きな姿勢...女性が限らず人間として、誰もが生きて行くうえで重要な指針を、千葉さんは短いインタビューの間に、力強く示してくださりました。(沼田)

備えあれば憂いなし

「成年後見制度」

成年後見制度とは?

「成年後見制度」とは、認知症知的障害、精神障害などの理由で判断力の不十分な人に代わり、その人の意思を尊重して、生活をサポートする制度です。制度の中には①法定後見制度、



②任意後見制度の二種類があり、①のサポートをする人を成年後見人(判断力の程度により補助・保佐・後見に分かれます)といい、本人や家族の申し立てにより家庭裁判所が選任・監督します。②の制度のサポートをする人を任意後見人と呼び、こちらは自分で選んで自分で契約します。

この成年後見人、実は誰でもなることができます。全国で約14万5千人がこの制度を利用しているようですが、その60%は親族の方が後見をしています。専門職(弁護士、司法書士、社会福祉士等)は約1万2千人しか登録していません。絶対数が不足しています。

市民後見制度

「朝型人間の生活をするために、8時には出勤しています。午前中にたっぷり仕事ができる」と、充実した気分になれます。常時数十件の依頼・相談をかかえ、休日は無きに等しい生活の中、千葉さんは、時間の使い方がとても上手です。

最初に手続き費用が数万円かかるほか、家庭裁判所が仕事の軽重や、被後見人の支払い能力を鑑みて後の費用を決定します。ただ、後見が続く間は、費用がかかりません。人問いつ何があるか誰にも予想できませんか

最近では、この後見人不足を補うために、市民後見人の養成が始まっています。市民後見人とは、一定の研修を積んだ市民が、成年後見人となり、主に地域の方々の支援をする事です。専門職は専門を生かし主に財産管理を担当し、市民後見人は地域の事情に詳しく小回りが利く利点を生かして日常の身上監護に重点を置くことで、相互に補完しあいながら後見ができれば



成年後見のベテラン、司法書士の戸村さん

転ばぬ先の杖

先日、司法書士の戸村勝夫さんにお話を伺いました。戸村さんは、制度発足以来10年にわたって後見業務に携わり、現在も4件受任中のベテランです。たくさんのお話をお聞きしたなかでも、「後見人を受任するにあたって一番重要なことは、事務

「世の中は大体半々の男女で構成されているわけですから、あらゆるメッセージをいただく。最後に、女性に向けて次のようなメッセージをいただきました。」「世の中は大体半々の男女で構成されているわけですから、あらゆるメッセージをいただく。最後に、女性に向けて次のようなメッセージをいただきました。」「世の中は大体半々の男女で構成されているわけですから、あらゆるメッセージをいただく。最後に、女性に向けて次のようなメッセージをいただきました。」

「世の中は大体半々の男女で構成されているわけですから、あらゆるメッセージをいただく。最後に、女性に向けて次のようなメッセージをいただきました。」「世の中は大体半々の男女で構成されているわけですから、あらゆるメッセージをいただく。最後に、女性に向けて次のようなメッセージをいただきました。」

編集後記

風が市の広報誌と共に配布されるようになってから読んで頂いている方が増えて嬉しく思います。新年を迎え今年の計画などをたてた方が多いと思いますが、進捗は如何でしょうか、少し実行して、計画の見直しをはかる頃でしょうか、卒業・新学期・新年度などの機会に! (平塚)

発行日 平成25年3月1日 編集発行 取手市 秘書課 編集協力員 内藤義彦/平塚恒夫 下園淳子/沼田久美 千302-8585 取手市寺田5139 TEL 0297-74-2141 FAX 0297-73-5995 H・P http://www.city.tatebayashi.jp Eメール hsho@city.tatebayashi.jp 表紙絵 有本唯